

自立心を育む

お手伝い



⑨

杉山 錠士

子どもを危険から守る

のは、親として絶対に必要なことです。とはいえ、子どもがチャレンジをして経験を積み、新たなスキルを獲得することも大切なことです。お手伝いは、普段大人がやっているさまざまな家事に挑戦するものなので、経験を積むチャンスだといえます。

しかし、中にはけがをする恐れがあるお手伝い

もあります。代表的なものが包丁や火を使う料理

でしょう。いずれも最悪の場合、命に関わる可能性があるので避ける親もいると思いますし、幼いうちから無理やりやらせることは控えた方がいいでしょう。

ただ、個人差はあれど、ある程度、食に興味を持ち、その危険性を理解できるようになっていたら、ぜひやらせてみるこ

とをお勧めします。包丁や火は危険である一方、便利なものでもあります。使い方を具体的に知ることによって素晴らしいスキルを得られますし、子どもができることを広げる可能性を秘めています。

また、こうしたお手伝いは集中する練習にもなります。よく「一度痛い目に遭わないと、理解できない」と言いますが、「けがをするかも」と想像できれば、わざわざ痛い目に遭わなくても危険を避けるスキルを身に付けられるはずです。

また、包丁や火の危険性を知ると、料理をしている人にむやみに近づく

危険性理解させ挑戦を

こともしなくなります。さらには、自分が食べる料理を作ってくれる人への尊敬や感謝にもつながると考えられます。

危険を伴う家事のお手伝いは、危ないものを使いこなせるようになる点にばかり目が向きますが、子どもの視野を広げることにもつながるので、十分に注意を払った上で、挑戦させることを検討してみてもらえたらと思います。

(放送作家・兼業主夫)



絵・さとうまなぶ